

新たな挑戦として 「実践としての経営戦略」に 取り組む

中溝一仁

(有)アクセスユープラン 代表取締役



折り返しを過ぎた人生、やりたいことを温存しておく余裕はありません。代表取締役の肩書きのまま大学の専任教員となり今年で4年目となります。社員たちの力強い取り組みと理解によってビジネスと研究・教育活動を両立させてもらっています。今年は新たな挑戦として「実践としての経営戦略」に取り組みたいと考えます。現在、私は研究・教育活動の場では「消費社会学」や「経営学」、「経営戦略」などを扱っていますが、今年からは自らが行っている実践の場でそれらを取り入れて、研究活動と実践の融合を試みます。

「経営学」は伝統的な他の社会科学系学問と異なり、多くの場合実際のフィールドから得られた知見を体系化

して理論を作り出しています。そうして得られた理論が多くの企業にそのまま適用され、そして成果に繋がればいいのですが、そう簡単にはいきません。なぜなら、100社あれば100社すべての条件や取り巻く状況が異なるからです。2つとして同じ企業は存在しません。したがって、経営学の戦略や理論もそのままでは使えません。むしろ何も考えず取り入れるのはリスクが高すぎます。ではどうすればいいのか。それは理論や戦略をその企業の実情に合わせて「柔軟に変化させること」だと思います。その「柔軟な変化」とは何か。今年には試行錯誤しながら実践し、その解を求めていきたいと考えています。

新年早々、小難しいお話で申し訳ありません。人間としては決して面倒ではありませんので、今後とも変わらぬお付き合いをお願い申し上げます。そしてみなさま方にとつて、充実した素敵な一年でありますことを心より祈念いたします。